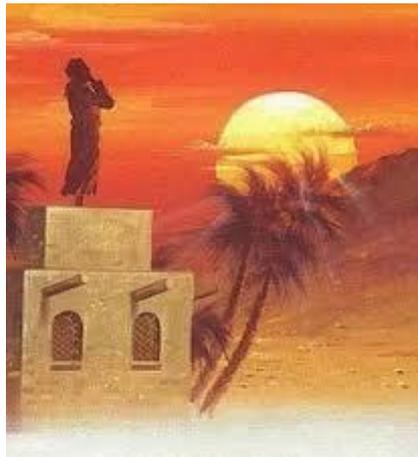


ビラールさま

～いちばん さいしょの ムアッズイン～



ムアッズインとは、なんのしごとをする人のことか、していますか？ムアッズインは、れいはいのよびかけ、アザーンをいう人のことです。きょうは、いちばんさいしょのムアッズイン、ビラールさまのおはなしをします。ビラールさまは、ビラール ブヌ ラバーフ アル=ハバシーというおなまえでした。アフリカのエチオピアでうまれました。ビラールさまは、どれいでした。さいしょは、ある女の人のもどれいでしたが、つぎにイスラームのことがだいきらいなことゆめいなウマイヤという人のどれいになりました。



ウマイヤはイスラームのことがだいきらいだったので、ビラールさまがイスラームにはいったことをすると、たくさんひどいことをするようになりました。あるとつてもあついで、ウマイヤはビラールさまをはだかですばくのすなの上にねころばせました。そして、あつくした石をビラールさまのからだの上のせ、「ムハンマドをひいて、われわれのかみをしんじるか、それともこのまましぬか?!」とせまりました。ビラールさまは、ひふがねつでとけたようになりながらも、「アハドゥン、アハドゥン(ゆいいつのおかた)」といながら、たえました。そんな中、アブーバクルさまがそれを目にし、ビラールさまをごじぶんのもっているどれいところかんして、ビラールさまをたすけたので、ビラールさまはじゆうのみになりました。

むかし、まだアザーンがなかったころ、ひとびとは、おいのりのじかんになると、バラバラにあつまってきたりしていましたが、ムスリムのかずがふえてくると、おいのりのじかんをしらせるひつようができました。どのようにおいのりのじかんをしらせるか、いろいろなアイデアがでましたが、なかなかきまらずにいました。ある日、アブドゥッラーというサハバさまが、あるゆめをみました。そのゆめでは、みどりいろのふくをきたおとこがやってきて、アザーンのことばをおしえてくれたのでした。アブドゥッラーさまがよげんしゃさまにそのゆめについてしらせると、よげんしゃさまは、きれいなこえでゆめいだったビラールさまにそのことばをおしえ、アザーンをさせました。ウマルさまは、そのアザーンをきくと、いそいでよげんしゃさまのところへやってきて、「わたしもそれとおなじゆめをみました！」と言いました。しゃくねつのさばくの中、「アハドゥン、アハドゥン(ゆいいつのおかた)」といってサブルされたビラールさまは、みなにゆいいつのおかたへのよびかけをするしごとをあたらされたのでした。



よげんしゃさまが、**てんごくへのたび(ミラーージュ)**をされたとき、あるおとをきいたので、ジブリールさまに「これはなんのおとですか？」ときくと、「これは、ビラールのおとです」とこたえられました。あるとき、よげんしゃさまが、ビラールさまに、「わたしは、てんごくであなたのあしおとをききました。あなたは、どんなよいおこないをしたのか、おしえてください。」すると、ビラールさまは、「わたしのおこないのなかで、いちばんよいものがあるとしたら、よるでも、ひるでも、いつも**ウドゥー**をして、ゆるされるだけれいはいをすることです。」とおっしゃいました。ビラールさまは、アザーンのおしごとをされていましたが、アザーンもイバーダのひとつなので、ウドゥーがひとつようです。だから、いつもウドゥーをたもったじょうたいでいたのです。

ビラールさまは、いつもねるまえ、「**アッラーよ、どうかわたしのつみや、まちがいをゆるしてください。**」とドゥアーされていました。そして、モスクのちかくのたかい家のやねのうえで、ファジルのアザーンをまつあいだ、いちにちもかかさず、「わたしは、あなたをたたえます。あなたにたすけをもとめます。**クライシュぞくがムスリムになるようにしてください。**」とドゥアーされていました。クライシュぞくが、ビラールさまに、たくさんのひどいことをしてきたにもかかわらず、ビラールさまは、かれらのためにドゥアーをしていたのでした。

よげんしゃさまがおなくなりになると、**マディーナ**のまちが、くらやみにつつまれました。ズフルのれいはいのじかんになり、ビラールさまはなみだをめにためながら、アザーンをよびかけはじめましたが、「**アシュハドゥ アンナ ムハンマダッラッスルッラー**」のところで、なきくずれてしまい、どうしてもつづきをいうことができませんでした。そのあと、カリフににんめいされたアブーバクルさまにアザーンをするよう、たのまれましたが、「わたしはよげんしゃさまいがいのだれのためにもアザーンをすることができません」といって、シャームちほうへうつりました。

なんねんもたったあとのある日、ビラールさまは、ゆめのなかで、よげんしゃさまをみました。そこでは、よげんしゃさまが「そろそろ、わたしをおとずれてくれてもよいでしょう」とおっしゃいました。そこで、マディーナのよげんしゃさまのおはかをたずねました。よげんしゃさまのおまご、**ハサンさまとフセインさま**がビラールさまに、「ファジルのれいはいのアザーンをしてください」とつよくおねがいられたので、ビラールさまは、アザーンをすることになりました。そして、アザーンをよびかけると、マディーナのまちがどよめき、ひとびとがいえからでてきました。マディーナのまちで、その日ほど、ひとびとがない日はありませんでした。

ビラールさまが、「**わたしはもうすぐ、よげんしゃさまとサハーバたちにあえるから、うれしい**」となんどもいいつづけながら、おなくなりになりました。